茶室修復へ寄付増加中

仙台藩ゆかり 山元町の文化財「此君亭」

東日本大震災で被災した山元町坂元地区にある町指定文化財「大條家茶室　此君亭」＝？＝の修復を目指し9月まで募っているクラウドファンディング（CF）型ふるさと納税で、低迷していた寄付が上向き始めた。一役買ったのが仙台市出身のお笑いコンビ「サンドウィッチマン」。思わぬ援軍を得た町は目標額達成に向け、さらなる支援を呼びかけている。

震災で土壁崩れる

茶室は藩制時代に坂元を治めた大條家の本拠地、蓑首城跡に立つ。震災で基礎がゆがんで土壁が崩れ、ひさしが折れるなどしたが、町は被災者の生活再建を優先し、修復は手付かずだった。風雨による劣化や、県内で最大震度6強を観測した2021、22年の地震で被害が拡大した。

文化財専門家や地元住民らの強い要望を踏まえ、町は22年5月、修復を決断。震災直後に3000万円程度と見込まれた修復費は、物価高騰の影響もあり7000万円以上に膨らんだ。

3月に始まったCF型ふるさと納税の目標額は100万円。5月下旬時点で200万円しか集まっていなかったが、同27日のニッポン放送のラジオ番組で風向きが変わった。

伊達みきおさんは「僕もこれから寄付はするんですけど。いろんな方に興味を持ってもらいたい」などと、富沢たけしさんと掛け合いながら熱く語った。伊達さんは大條家の子孫で、茶室の存在は父親からずっと聞かされていたという。

番組放送以降、寄付額は一気に約200万円もアップし、今月4日時点で計約430万円。「サンド効果」で増額傾向はなお続く。

橋元伸一町長は「サンドウィッチマンの発信力はすごい。応援してくれて驚いたがとてもありがたい」と感謝し「期間終了まで引き続き、あらゆる機会に寄付への協力をお願いしていく」と話す。

子孫 サンド伊達さんら援軍

立ち入り禁止が続く大條家茶室。腐朽を防ぐ応急処置として外壁に木板が張り巡らされている

？ 大條家茶室　此君亭　木造平屋約45平方メートルの書院風茶室。江戸時代後期の建物で、1832年に大條家15代当主の道直が仙台藩主伊達斉邦から与えられ、仙台城下の屋敷内に移された。1932年に現在地へ移築。所有者が2002年、町に寄付し、町指定文化財となった。

1000人以上で歌って踊って

「とっておきの音楽祭」活況

観客と一体となってダンスを披露するグループ

障害がある人もない人も一緒に楽しむ「とっておきの音楽祭」（実行委員会主催）が4日、仙台市中心部であった。青葉区の勾当台公園や錦町公園など22カ所にステージが設けられ、多彩な音楽が響き渡った。

県内を中心に山形、福島両県や、東京などの230グループ、1000人以上が出演。観客はリズムに乗って歌やダンス、手話などをして盛り上がった。

宮城教育大のボランティアサークルと市内のダウン症患者でつくるダンスグループ「ESPT」はJポップに合わせ18人で踊った。メンバーの小松泰子さん(38)は「月2回の練習の成果が出せた」、島田良徳さん(37)は「楽しんでもらえたと思う」と笑顔を見せた。

音楽祭は22回目。新型コロナウイルスの影響で昨年は行わなかったフィナーレも復活した。田村真衣実行委員長(48)は「前回よりもステージを増やし、盛り上がって良かった。障害のある人が身近にいると知り、特別なことではないと感じてほしい」と話した。

仙台 障害超えともに楽しむ

家族皆で触れ合って

八木山動物公園が招待

ウサギの背中を優しくなでる女の子

仙台市八木山動物公園（太白区）で3日、障害のある人や家族を招待する「ドリームナイト・アット・ザ・ズー2023」があった。市内外から約1150人が訪れ、動物をゆっくりと眺めたり、ガイドの話に耳を傾けたりした。

閉園時間を午後3時に繰り上げ、3時半以降に招待者を迎えた。ウサギやモルモットの触れ合いコーナーが人気で、子どもたちは背中を優しくなでて動物の体温を感じていた。

多賀城市の多賀城東小6年菅野志保さん(11)と妹の4年紗希さん(9)は知的障害のある弟虎太郎君(6)と両親の5人で参加。「モルモットを触るのは初めて。温かくてふわふわだった」と声をそろえた。

障害者らを動物園に招く取り組みは1996年にオランダの施設ががんを患う子どもたちや家族を招待したことをきっかけに世界各国に広まった。現在は約280の動物園や水族館が実施し、八木山動物公園では2016年に始まった。

子ども力士よ 目指せ時疾風

登米・時津風相撲大会

少年少女の力士が力比べをする「時津風相撲大会」が4日、登米市米山町の道の駅米山の相撲場であった。県内外から約50人が出場し、未就学児から中学生まで6部門に分かれ対戦した。

地元の実行委員会が主催し、今年で2回目。十両の時疾風（栗原市出身）ら県内出身の力士3人が所属する時津風部屋が運営に協力している。

時津風親方や同部屋の幕下の大畑（栗原市出身）が見守る中、投げ技の掛け合いや土俵際の逆転など熱戦が相次ぎ、会場から大きな歓声が上がった。

登米市豊里小5年の江田壮汰君(11)は「たくさん練習してきたが、相手が強くて勝てなかった。もっと練習して強くなりたい」と雪辱を誓った。

上位の成績は次の通り。（敬称略）

【未就学児の部】①菅原倫②関川大輝③志賀渚④長江杏

【低学年の部】①三浦悠正②阿部怜爾③千葉匡真④後藤秀

【中学年の部】①菅原陽②三浦颯人③阿部稔生④佐藤澄人③横江寛翔介

【高学年の部】①三

【女子の部】①三

会長賞に佐藤さん

県管打楽器ソロコンテスト

第38回県管打楽器ソロコンテスト（県吹奏楽連盟主催）で3日、河北新報社主催の加美町の中新田バルであった。予選を通った県内の小中学生、社会人ら79人がフルートやトランペットなどの独奏で競った。

最高賞の県吹奏楽連盟会長賞には、トランペット演奏した仙台市北中の佐藤諒弥さんが輝いた。北新報社賞には仙台市の沢田碧海さん、バルル賞には仙台青陵学校の沼田温人さん、ハ賞には仙台市向山の黒森優花さんがそれぞれ選ばれた。